２０２１年９月５日（日）聖霊降臨後第１５主日
振起日・十歳児祝福式　主日礼拝

礼拝招詞「新しい歌を主に向かって歌え。全地よ、主に向かって歌え。主に向かって歌い、御名をたたえよ。日から日へ、御救いの良い知らせを告げよ。」

詩編９６編１～２節

主の祈り

交読詩編　詩編１１９編３７～４０節

むなしいものを見ようとすることから
わたしのまなざしを移してください。
あなたの道に従って
命を得ることができますように。
あなたの僕に対して、仰せを成就してください。
わたしはあなたを畏れ敬います。
わたしの恐れる辱めが　わたしを避けて行くようにしてください。
あなたは良い裁きをなさいます。
御覧ください　わたしはあなたの命令を望み続けています。
恵みの御業によって　命を得させてください。

使徒信条

讃美歌　　１９５　いのちの君にます主よ

聖　書　マルコによる福音書７章２４～３０節

24 イエスはそこを立ち去って、ティルスの地方に行かれた。ある家に入り、だれにも知
られたくないと思っておられたが、人々に気づかれてしまった。25 汚れた霊に取りつか
れた幼い娘を持つ女が、すぐにイエスのことを聞きつけ、来てその足もとにひれ伏した。
26 女はギリシア人でシリア・フェニキアの生まれであったが、娘から悪霊を追い出して
くださいと頼んだ。27 イエスは言われた。「まず、子供たちに十分食べさせなければなら
ない。子供たちのパンを取って、小犬にやってはいけない。」28 ところが、女は答えて言
った。「主よ、しかし、食卓の下の小犬も、子供のパン屑はいただきます。」29 そこで、
イエスは言われた。「それほど言うなら、よろしい。家に帰りなさい。悪霊はあなたの娘
からもう出てしまった。」30 女が家に帰ってみると、その子は床の上に寝ており、悪霊は
出てしまっていた。

牧会祈祷

天の父なる神さま。９月を迎えることが出来ました。主の日、あなたの御前に跪くことが赦され、礼拝を捧げられる恵みを心より感謝いたします。本日は、振起日・十歳児祝福式です。新学期が始まりました。大人も子どもも神さまの恵みに感謝と讃美と祈りによって応えます。神さまの喜びと私たちの喜びを一つにしてください。

家庭礼拝を捧げる一人一人、礼拝堂に集まる一人一人、神さまの愛する一人一人をあなたのみ手の中に包み一つとしてください。感染拡大の危機の中、不安な日々を歩んでいます。このような時こそ、信仰によって、神を仰ぎ、隣人を愛する信仰に立つ者としてください。体調を崩している者をお支えください。医療従事者を御手の内、

お支えください。主イエス・キリストの御名によって祈ります。　　アーメン

説 教　「家に帰りなさい」　　牧師　髙橋　潤

本日の御言葉の登場人物は主イエスと悪霊に憑かれた娘をもつ母の二人です。この二人の対話が記されています。主イエスはユダヤの隣の国であるフェニキアのティルス地方へ休暇に出かけたようです。主イエスは、誰にも知られたくないと思って、ある家に入りました。にもかかわらず、ティルスの人々に知られてしまいました。なぜ、こんなに早く主イエスのことがティルスの人々に知られてしまったのでしょうか。実は、マルコによる福音書３章に記されているように、既にティルスの人々は、主イエスが手の萎えた人を安息日に癒やした出来事を知っていました。この出来事の直後に、ユダヤでは、ファリサイ派の人々が主イエスを殺す相談をはじめましたが、もう一方では、特にユダヤ以外の異邦人の地域に主イエスの教えと愛の業が伝えられていました。主イエスのそばにはガリラヤからの群衆だけでなく、ユダヤの地方以外の群衆が主イエスの言葉を聞いていたことが記されています。マルコ３章８節には、ユダヤ以外の地域である「ティルスやシドンのあたりからもおびただしい群衆」が主イエスのしておられることを残らず聞いて、そばに集まって来たと記されています。すなわち、主イエスの教えと愛の業は、すでにユダヤだけでなく、近隣の諸外国の人々にまで知れ渡っていたのです。主イエスに対する殺害計画が練られている一方で、主イエスの評判は広がっていたのです。そしてギリシャ人でシリア・フェニキア生まれの母親が、主イエスのことを聞きつけて、主イエスの足もとにひれ伏しました。

この御言葉は、私たちに大切な事を伝えています。それは、当時のユダヤ人と異邦人との対立を承知の上で主イエスが隣国の町ティルスへ出かけた事。ギリシャ人の母親がユダヤ人である主イエスにひれ伏した事。民族の隔たりを超えた対話がなされているということです。そして最も大切なことは、主イエスの愛の業がギリシャ人の娘を癒したことです。この母の娘を思う心が大胆な決断をさせ、主イエスの愛を引き出したという見方も出来ますが、それよりも主イエスの福音伝道は、ユダヤからフェニキアへ進み、主イエスの教えと愛の業がユダヤの地においても行われたように、異邦人の地でも主イエスの愛の業が力を発揮したということではないでしょうか。

主イエス殺害計画を準備している人々は、この主イエスのティルス行きを問題にして糾弾したかったと思います。しかし、マルコによる福音書はファリサイ派の人々に対して、律法を越えた愛の業を伝えているように思います。そして、それ以上に主イエスを信頼し主イエスの足もとにひれ伏し、懇願する母の姿を通して、ユダヤの殺害計画を練る人々には信仰が見えないが、ティルスの母の姿の中に信仰を発見することが出来たと伝えているのです。

多くのユダヤ人にとって、主イエスが行ったティルスでの愛の業は、注目すべき出来事です。福音書記者マルコにとっても、主イエスによるギリシャ人の娘の癒やしは、はじめての出来事であったと思います。しかし、福音書記者であるマタイもマルコも

この出来事を、公にして、大切な神の御業として書き記しました。ユダヤではなくティルスで、しかもギリシャ人女性の心に信仰を発見し、愛の業が行われたという喜びが、私たちに伝えられているのです。

この福音書における信仰発見の喜びと愛の業が行われた喜びは、主イエスとの対話によって引き出され、伝えられているのです。

イエスは言われた。「まず、子供たちに十分食べさせなければならない。子供たちのパンを取って、小犬にやってはいけない。」28 ところが、女は答えて言った。「主よ、しかし、食卓の下の小犬も、子供のパン屑はいただきます。

主イエスは、ご自身の足もとにひれ伏して懇願するギリシャ人の母に対して、娘の様子を聞いたり、この母親が主イエスの所までたどりついた経緯を聞くこともしません。ティルスの病院や悪霊払いにお願いしたのかどうかも聞きません。「まず、子供たちに十分食べさせなければならない。子供たちのパンを取って、小犬にやってはいけない」という言葉は、暗号のように聞こえます。当時の社会的な常識では、ユダヤ人とギリシャ人が共同生活をしていることはあり得なかったと思われます。しかし、主イエスは、ギリシャ人の母に対して「子供たち」と「小犬」という食卓の様子を伝えたのです。この主イエスの言葉は、主イエスの言葉尻を探し出し陥れたいという人が読んでも、問題にすることは出来ない対話でしょう。その意味では、あえて、民族間の緊張を問題にすることなく、子供と小犬によって同じ家の食卓にいることを知らせた主イエスの言葉は、この母にとって大きな恵みであり招きでした。主イエスが異邦人に対して心を開いていることが、このような仕方で伝えられたのです。主イエスの伝道の姿勢がここに示されています。**「子供たちのパンを取って、小犬にやってはいけない。」**は、ユダヤ人の救いが第1であることと子供たちと小犬の距離が近いことを絶妙な仕方で伝えているのです。主イエスにとってユダヤ人伝道を開始してティルスに来て、ユダヤ人と異邦人の距離がかけ離れているのではなく、両民族の距離は近いことが伝えられています。これは、両民族にとって聞くことのない言葉だったと思います。旧約聖書において「犬」は、汚れた動物ですが、主イエスは小犬（クナリオン）という表現で家の中にいることが自然である情景を伝えました。

主イエスのこの言葉に対して母の応答は、食卓に招かれている小犬として**「子供のパン屑はいただきます。」**と主イエスの招きに喜んで応えました。子供と小犬が共に日常生活を過ごしているように、小犬が子供のパン屑を食べるという誰もが日常見聞きしている光景を思い描いて答えました。

「そこで、イエスは言われた。「それほど言うなら、よろしい。家に帰りなさい。悪霊はあなたの娘からもう出てしまった。」30 女が家に帰ってみると、その子は床の上に寝ており、悪霊は出てしまっていた。」

主イエスは、悪霊に取り憑かれた娘と出会っていません。直接会うことなく癒しの御業が行われました。ギリシャ人の母の願いを聞き入れましたが、娘に触れることなく癒やしたのでした。言葉によって、神の愛の業を行いました。主イエスの愛の業は、

懇願する母の中に信仰を見いだしたのです。主イエスは、初対面のこの母から信仰を引き出したのです。主イエスを信頼するということは、こういうことなのです。

当時のユダヤ教では、権威ある律法学者の弟子になり、学問を学び、教師となります。一般民衆は、律法学者の教えによって日常生活を進めていました。しかし、主イエスは、初対面でありユダヤ人ではない異邦人の母の返事から主イエスへの信頼と信仰を受け取り、愛の業を推し進めたのです。

「それほど言うなら、よろしい。家に帰りなさい。」 聖書協会共同訳では**「その言葉で十分である。行きなさい」**と訳されています。主イエスの言葉をよく聞き、応答した母は、「その言葉で十分である」という主イエスの言葉を与えられました。主イエスは、この母の言葉から信仰を引き出し、その言葉で十分と語られたのです。この主イエスと母の対話によって、悪霊は出て行きました。家に帰った母親は、どんなに喜んだことでしょうか。床の上に寝ている娘を抱きしめたことでしょう。

この主イエスの対話と愛の業は、主イエスを陥れようとする人々がどんな知恵を絞っても批判も非難もすることは出来なかったのです。

主イエスは、私たちが主を信頼する言葉を待っておられます。私たちが主イエスの言葉を聞いて答える、私たちのつたない言葉から信仰を引き出してくださいます。

主イエスの御言葉を信頼して、主イエスにより頼むことによって、主イエスは、「その言葉で十分である」とお語りくださるのです。祈りましょう。

天の父なる神さま。主イエスの言葉に信頼して応答する私たちの言葉をお聞きくださることを感謝いたします。近づいてくださる主イエスの足もとにひれ伏し、主を信頼する勇気をお与えください。キリストの知恵によって、異邦人である私たちをお導きください。主イエス・キリストの御名によって祈ります。　アーメン

祈　祷（各自、自由にお祈りください）

祈祷課題　病を負っている方々とそのご家族に主の癒やしを祈りましょう
命の危機、不安と孤独に直面している方々に主の恵みを祈りましょう
医療従事者の健康が守られ使命が支えられますように祈りましょう

讃美歌　２８５　主よ、み手もて　ひかせたまえ

献　金

頌　栄　５４４

祝　祷

主があなたを祝福し、あなたを守られるように。
主が御顔を向けてあなたを照らし　あなたに恵みを与えられるように。
主が御顔をあなたに向けて　あなたに平安を賜るように。
主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりが、
あなたがた一同と共にあるように。　アーメン